

⑯ 公開特許公報 (A) 平4-90707

⑮ Int.Cl.⁵
A 45 C 13/30
// A 47 G 29/10

識別記号 C
C 6936-3B
B 7137-3K

⑯ 公開 平成4年(1992)3月24日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全7頁)

⑯ 発明の名称 紐の端末処理構造

⑯ 特願 平2-208396
⑯ 出願 平2(1990)8月6日

⑯ 発明者 中村俊夫 大阪府大阪市阿倍野区文の里3丁目14番4号503
⑯ 出願人 中村製袋株式会社 大阪府大阪市阿倍野区文の里3丁目17番11号
⑯ 代理人 弁理士 菊田璋子 外1名

明細書

1. 発明の名称 紐の端末処理構造

2. 特許請求の範囲

1. 少なくとも一方が穂形をなす一対の部材(2.2')を対向合致させて両者間を紐(30)の端部の収納用空間となし、両者の対向縁の少なくとも一方に紐挿入用の凹部(10,12)を設け、この一対の部材(2.2')により紐の端部を両側より抱持し、前記端部の自由端が前記一対の部材(2.2')の対向する面領域内に位置するようなした紐の端末処理構造において、

前記の紐挿入用の凹部(10,12)は周方向に隣接して2個設けられていることを特徴とする紐の端末処理構造。

2. 少なくとも一方が穂形をなす一対の部材(2.2')を対向合致させて両者間を紐(30)の端部の収納用空間となし、両者の対向縁の少なくとも一方に紐挿入用の凹部(17)を設け、この一対の部

材(2.2')により紐の端部を両側より抱持し、前記端部の自由端が前記一対の部材(2.2')の対向する面領域内に位置するようなした紐の端末処理構造において、

前記の紐挿入用の凹部(17)は周方向に延びる長孔であることを特徴とする紐の端末処理構造。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この発明は、紐の端末処理構造に関する。

この発明において「紐」とは狭義の紐だけに限らず、繊維紐、紙紐、鎖、ワイヤー、柔軟な合成樹脂線状体等、その材質、製法、形状、用途を問わず、およそ可挠性があり且つ長尺状である部材のすべてを含む。

【従来の技術】

この発明者は、先に、次のような紐の端末処理構造を提案した。

少なくとも一方が穂形をなす一対の部材を対向合致させて両者間を紐の端部の収納

用空間となし、両者の対向縁の少なくとも一方に紐挿入用の凹部を設け、この一対の部材により紐の端部を両側より抱持し、前記端部の自由端が前記一対の部材の対向する面領域内に位置するようとした紐の端末処理構造。

[発明が解決しようとする課題]

前記の紐の端末処理構造の1つの実施態様として、第27図に示すように、紐30を2つ折にしてその端部を収納用空間の内部に位置させたものがある。この場合には、2つの紐部分32, 32が、収納用凹部10, 10が構成する孔10'内に挿通された場合に、その根元部分38, 38が、本体部1の軸方向に並んでいる。したがって、第28図に示すように、紐部分32, 32を広げようとする力が働いた場合には、本体部1を構成する2つの構成部材2, 2'が分離し、これにより紐の端末処理構造が破壊することになる。

この考案は、上記の欠点を解消しようとするものである。

[実施例]

第1図～第4図は、この発明の第1の実施例を示す。本体1は円盤状であり、共に殻形をなす2つの構成部材2, 2'を合致させてなる。各構成部材2, 2'の周縁上端部における開口個所には、それぞれ2つの凹部10, 12が隣接して形成され、紐用の挿通孔10', 12'を形成している。

30は紐であって、2つ折にされて2つの紐部分32, 32を有している。紐部分32, 32の自由端34, 34には、結び目38, 38が形成されている。

この紐の端末処理構造を組立てる場合には、第2図に示すように、下側の構成部材2の凹部10, 12に紐部分32, 32の基部38, 38を嵌込み、その上に、上側の構成部材2'を、上下の凹部10, 10; 12, 12が合致するようにして重ね合せる。2つの構成部材2, 2'の間は接着、熱溶着等により固定する。

第5図の実施例は、上下の構成部材2, 2'の固定手段に関するものである。この場合、下側の構成部材2の開口縁には、その円周方向に沿っ

[課題を解決するための手段]

請求項1に記載の発明においては、前記のような紐の端末処理構造において、前記の紐挿入用の凹部は周方向に隣接して2個設けられている。

また、請求項2に記載の発明においては、同様の紐の端末処理構造において、前記の紐挿入用の凹部は周方向に延びる長孔である。

[作用]

前記の紐の端末処理構造においては、2つの収納用凹部が本体部の周方向に隣接して形成されているか(請求項1)、又は凹部が周方向に延びる長孔である(請求項2)ので、2つの紐部分の根元部は強制的に周方向に並んで位置させられる。したがって、2つの紐部分を分離させようとする力が働いても、この力は本体部の周方向に作用するにすぎず、本体部を構成する2つの構成部材を分離させようとする方向には力が働かず、結局、紐の端末処理構造は破壊されない。

て係合縁部14が延びている。係合縁部14の上端には、直徑方向外方に向かう凸部15が形成されている。一対の構成部材2, 2'を合致させた際には、係合縁部14は構成部材2'の内周面に嵌入されると共に、係合凸部15は構成部材2'の内面の突縁16と係合し、両構成部材2, 2'は相互に固定される。この場合には、必要に応じ、両構成部材2, 2'を分離することができる。例えば、この発明の紐の端末処理構造をキー ホルダーに使用する場合には、両構成部材2, 2'を分離させた状態で、紐aにキーを挿通し、しかるのち前記した処にしたがって両構成部材2, 2'を合致させる。紐aに挿通されたキーを取除いたり追加したりする場合には、両構成部材2, 2'を分離させればよい。なお、このような場合には、両構成部材2, 2'の嵌合状態を充分に強固なものとする必要があるが、嵌合が強固なときは、紐挿通用凹部10, 12にドライバー等を挿入して、これをこじることにより両者を分離させることができる。

第6図に示すさらに他の実施例においては、紐30の基部38は合体して1つの結び目37を形成している。

第7図～第12図は、紐挿通用の孔の変更例を示す。

第7図においては、紐挿通孔10',12'は2つの分離した角孔である。

第8図においては、2つの丸孔10',12'がその一部において重複して連通している。

第9図においては、2つの各孔10',12'が連通部13を介して繋っている。

第10図においては、2つの丸孔10',12'が分離している。

第11図においては、紐挿通孔17は長円状に形成されている。

第12図においては、紐挿通用の孔17が角形の長孔に形成されている。

第13図においては、本体1の両構成部材2,2'の一方は平板状であり、他方は歯状に形成されている。

第17図の場合には、ピン状の止め手段24が下側の構成部材2の中央に立設されている。紐30の結び目37がこのピン24にかかっている。

第18図の場合は、例えばプラスチックにより一体成形された一対の箱形部材2.2'が蝶番25を介して一体に連接されており、箱形部材2.2'のそれぞれ開口端部には係合部材26,27が設けられている。紐を凹部10,12に落し入れて挿通したのちに箱形部材2.4を閉塞し、係合部26,27により両者をロックすることができる。

第19図の実施例においては、箱形部材2.2'の一端部にビボット28を設け、これを介して2つの箱形部材2.2'が開閉自在である。29,29はそれぞれ箱形部材2.2'に突出した掴み手段であって、両者間にバネ手段40が介設され、箱形部材2.2'を常に閉じるように付勢している。

第20図においては、上下一対の構成部材2,2'が四角形状の箱形部材である。これらの箱形部材2.2'の内部になんらの係止手段を設けず、ただ、紐30の結び目37を箱形内部に位置させ、

第14図では、下側の構成部材2の上部内周面には雌ネジ18が設けられている。上側の構成部材2'の下部にはこれより径小の凸部が突設され、その外周面に雌ネジ19が設けられている。このようにして、構成部材2'を構成部材2に対してねじ込んで回転することにより、ネジ19の下端が紐aを挟着して、紐aは両構成部材2,2'に対して固着される。

第15図は、第14図と同様に半球状の構成部材2.2'からなるが、第14図の場合とは異なり、両構成部材を互いに固定保持する格別の手段を有さず、部材2.2'の対向する端面8,9'に接着剤を塗布して両者を合体させる。

第16図においては、ピン部材20,20が2つ接近して設けられ、その間に紐30の結び目37が係合して紐30の抜けが防止されている。21は構成部材2'に垂設した凸部であって、構成部材2の側には凸部22,22が設けられ、この凸部22に前記の凸部21を圧入しうる孔23が設けられている。

この結び目より小さな凹部10,12により紐が外部へ抜け出るのを防止している。

第21図～第24図は、紐と本体との種々の組合せの形態を示している。第21図は、基本的に第1図～第4図に示す第1の実施例と同じである。第22図においては、紐の結び目が外側に位置し、紐の屈曲部が本体の挿通孔に挿通されている。

第23図においては、紐30がその一方で結ばれて輪奈状を形成し、2つの本体が輪奈状紐の両端に取付けられている。

第24図においては、紐30は輪奈状をなしておらず、本体1の近傍において屈曲して小さな輪奈を形成し、これが本体1の挿通孔に挿入されている。

第25図は、この発明の紐の端末処理構造を用いたキーホルダーの一例を示している。また、第26図においては、このような紐の端末処理構造を、ショッピングバックの提げ手紐に適用した場合を示している。

前記の実施例においては、いずれも本体の構成部材2.2'の開口縁における適所において、それぞれ円周方向に隣接する2つの収納用凹部を設け、それぞれ別個の収納凹部に2つの紐部分を挿通するか、または、円周方向に横長の孔を設けて、この中に2つの紐部分を挿通したものである。したがって、2つの紐部分は強制的に円周方向において横方向に並ばせられる。したがって、板に2つの紐部分を広げようとする力が働いても、この力は各構成部材2.2'の収納凹部に対して、これらを横方向に押し広げようとする力として働く。つまり、2つの構成部材2.2'の軸方向において両者を分離しようとする力が働かない。そのため、板に2つの紐部分を広げようとする力が働いた場合にも、両構成部材2.2'が不用意に分離して、この発明の紐の端末処理構造が破壊されることがない。

【発明の効果】

請求項1に記載の発明においては、2つの紐部分がそれぞれ円周方向に並んだ2つの挿通孔

に別個に挿入されているので、2つの紐部分は強制的に円周方向に並ばせられることになり、板に2つの紐部分を広げようとする力が働いても、これは本体の両構成部材を分離させようとする力としては働かない。

請求項2に記載の紐の端末処理構造においては、円周方向に長い孔が1つ設けられており、2つの紐部分はその内部において円周方向に強制的に並ばせられることになる。したがって、上記と同様に両紐部分を広げようとする力が働いても、本体の両構成部材が分離されることはない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、この発明の一実施例を示す斜視図、
第2図は、その分解斜視図、
第3図は、第1図のIII-III線断面図、
第4図は、第1図のIV-IV線断面図、
第5図は、本体の開口縁の変更例を示す分解斜視図、

第6図は、紐の挿入状態の変更例を示す横断面図、

第7図～第10図は、それぞれ、紐の挿通孔の変更例を示す第4図と同様の図、

第11図は、周方向に長い孔を1つ設けた場合の第4図と同様の図、

第12図は、前図の変更例を示す図、

第13図は、本体の構成部材の一方のみが設形をなしている場合を示す縦断面図、

第14図～第18図は、それぞれ、この発明の紐の端末処理構造の他の実施例を示す分解斜視図、

第19図は、この発明の更に他の実施例を示す縦断面図、

第20図は、この発明の更に他の実施例を示す分解斜視図、

第21図～第24図は、それぞれ、この発明における本体と紐との係合状態に関する種々の変更例を示す横断面図、

第25図は、この発明の紐の端末処理構造を

キーホルダーとして利用した場合の斜視図、

第26図は、この発明の紐の端末処理構造を袋の提げ手に用いた場合を示す斜視図、

第27図は、この発明の構成を備えない紐の端末処理構造の一例を示す斜視図、

第28図は、前図の側面図である。

【符号の説明】

2, 2' ……構成部材

10, 12, 17 ……凹所

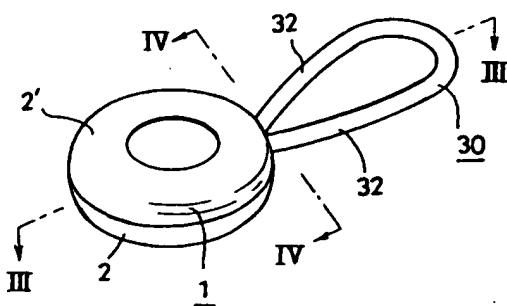
30 ……紐

特許出願人 中村製袋株式会社

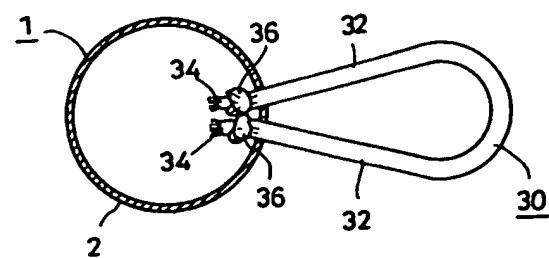
代理人 弁理士 萩田璋子

ほか1名

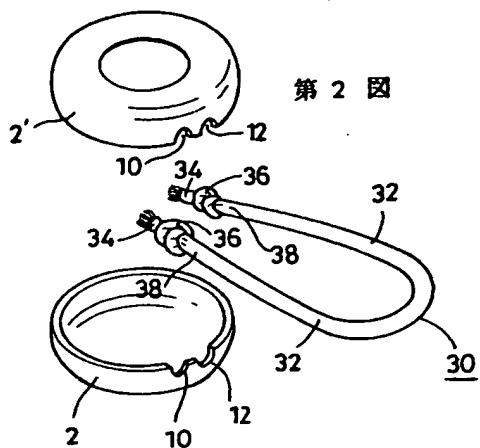
第1図



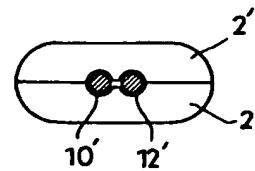
第3図



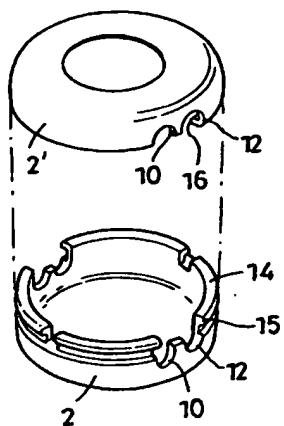
第2図



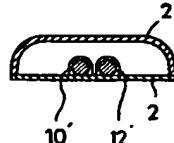
第4図



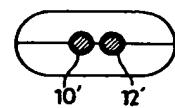
第5図



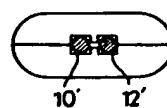
第13図



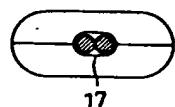
第10図



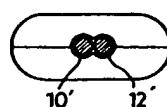
第7図



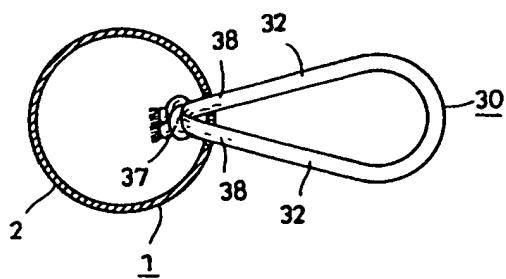
第11図



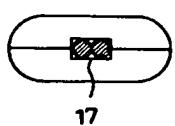
第8図



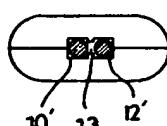
第6図



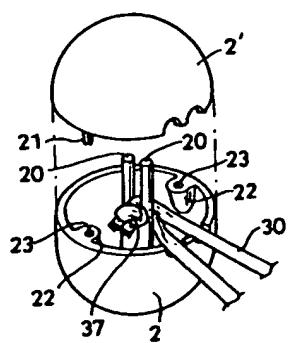
第12図



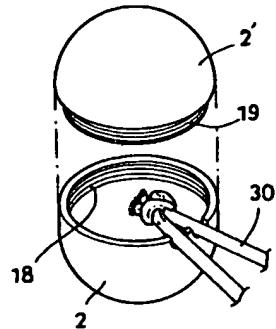
第9図



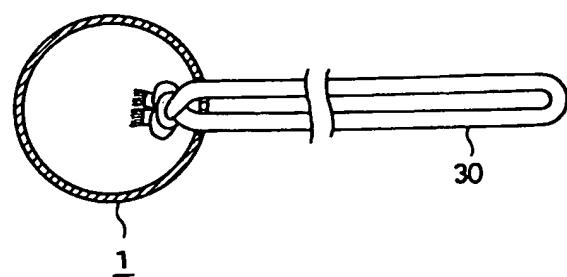
第16図



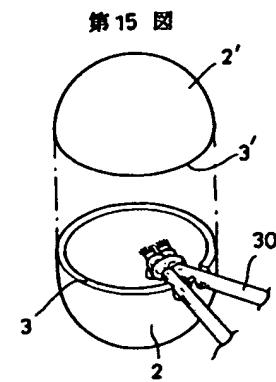
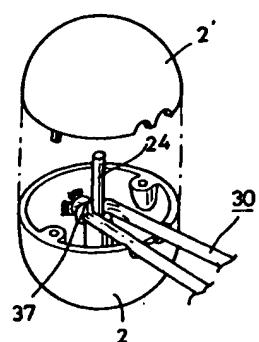
第14図



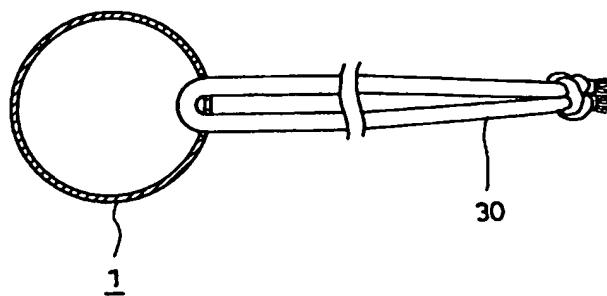
第21図



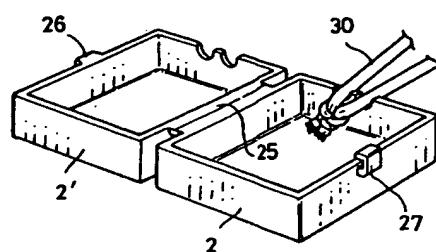
第17図



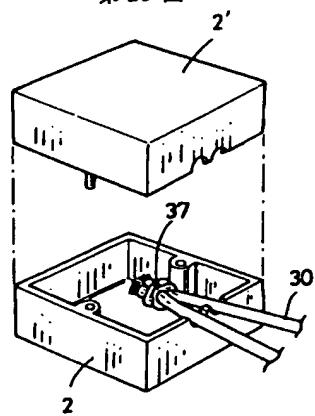
第22図



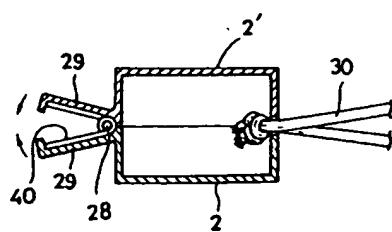
第18図



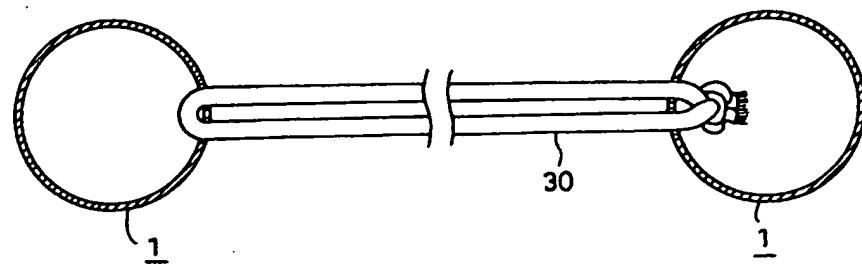
第20図



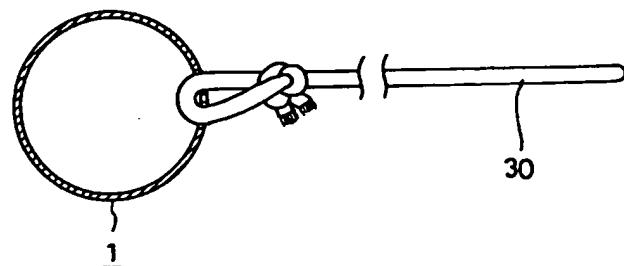
第19図



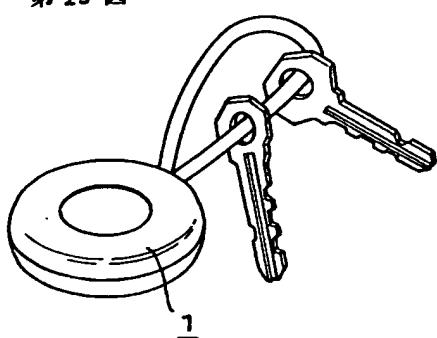
第 23 図



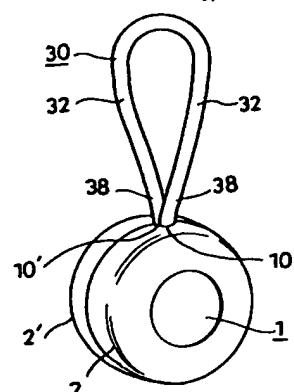
第 24 図



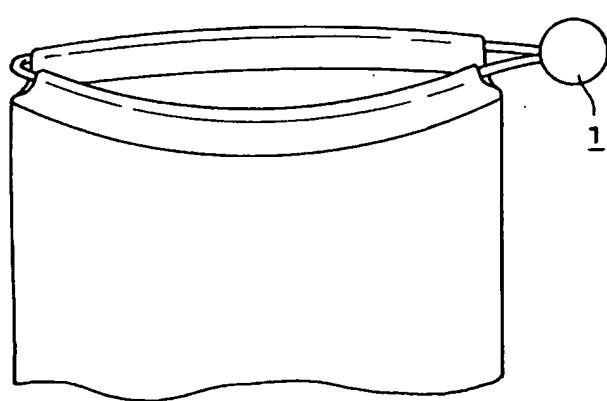
第 25 図



第 27 図



第 26 図



第 28 図

